

令和7年度病害虫発生予察注意報第5号

令和7年8月4日
岐 阜 県

作物名 大豆、野菜類、果樹類および花き類

病害虫名 ハスモンヨトウ

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 8月上旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 海津市と恵那市に設置したフェロモントラップの誘殺は、それぞれ6月中旬、7月中旬から急増し、5月第1半旬～7月第4半旬の累計誘殺数は、海津市で1,539頭（平成比約3.4倍）、恵那市で210頭（平成比約4.9倍）と多くなっている（図1、2）。
- (2) 7月下旬の巡回調査では、岐阜・西濃地域の大豆で卵塊や若齢幼虫が観察され（写真）、白変葉が散見される。（写真）。
- (3) フェロモントラップによる誘殺ピークは平成9～10月に見られることから、今後も発生量が増加し、被害が拡大するおそれがある。
- (4) 名古屋地方気象台の1か月予報（7月24日発表）では、今後の気温は平成より高いと予報されており、本虫の発生に好適な気象条件になると予測される。

5 防除上の注意事項

- (1) 大豆では白変葉の発生を確認したら、直ちに防除を実施する。
- (2) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫の防除に重点を置く。
- (3) 世代を重ねるごとに発生量が増加する傾向にあるため、早期に防除する。
- (4) 施設栽培では、防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。
- (5) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

【参考資料】

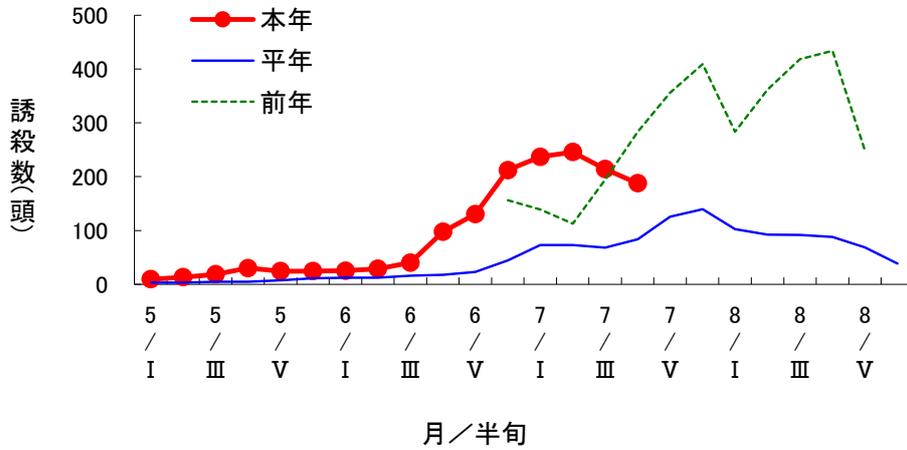


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移(海津市)

※ 前年の5/I ~ 6/Vは欠測

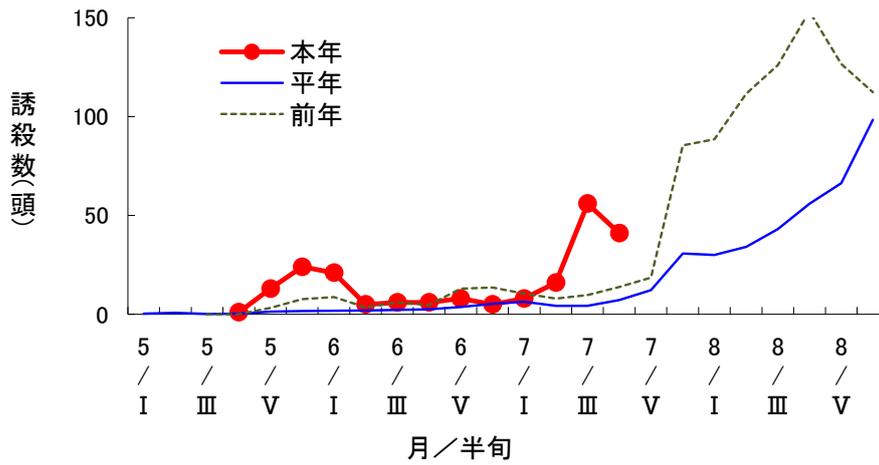


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移(恵那市)



写真 大豆に産卵された卵塊 (左) 大豆の白変葉 (右)